NEC Express5800 シリーズ

HostRAID™

SCSI*Select* ユーティリティ

操作説明書

2003 年 11 月　第 1 版

856-121814-012-0

商標について

Adaptecとそのロゴ、HostRAID、SCSI*Select*及びAdaptec Storage Manager™ - Browser Edition、HostRAID™は米国Adaptec,Inc.の登録商標です。その他記載の会社名及び商品名は各社の商標または登録商標です。

ご注意

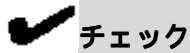
(1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3)弊社の許可無く複製・改変などを行うことはできません。
(4)本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5)運用した結果の影響については(4)項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

856-121814-012-0

目次

第 1 章 ご使用の前に

1.1. はじめに

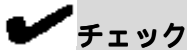
SCSI*Select* ユーティリティは、BIOS ベースのユーティリティです。HostRAID の設定を有効にした場合、アレイを作成することができます。
本書では、HostRAID を有効にし、アレイを作成する場合の SCSI*Select* ユーティリティの使用方法について説明します。

オペレーティングシステム（以降OSと略記します）をインストールするためには、本体装置添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMが必要です。

1.2. SCSI*Select* ユーティリティの機能

SCSI*Select* ユーティリティには次の機能があります。

(1) HostRAID 設定機能
アレイを作成するために、HostRAID 設定を「Enabled」にする機能です。

(2) アレイの作成機能
次の RAID レベルのアレイを作成できます。

●RAID0 ：ハードディスクドライブ（以降 HDD と略記します）1～4 台で構成可能。
パフォーマンスは向上しますが、冗長データがないためアレイを構成する HDD に障害が発生した場合は、データ復旧ができません。
●RAID1 ：HDD2 台で構成可能。
アレイを構成する HDD に障害が発生した場合にも、データ復旧は可能です。
データ容量は、構成する HDD の容量の小さい方の HDD と同じ容量になります。
●RAID10：RAID1 のスパン。HDD4 台で構成可能。
アレイを構成する HDD に障害が発生した場合にも、データ復旧は可能です。
データ容量は、構成する HDD の容量の一番小さい HDD の 2 倍になります。
●スペアディスク：チャネルあたり 1 台のみ設定可能。
RAID1 または RAID1 のスパンに対して、スタンバイリビルドが可能になります。

1チャネルあたりのデータディスクの台数は4台までです。1チャネルあたりに作成可能なRAIDの組み合わせは次のようになります。

・2～4台のHDDによるRAID0が1個
・2台のHDDによるRAID0が2個
・2台のHDDによるRAID1が1個
・2台のHDDによるRAID1が2個
・2台のHDDによるRAID0が1個とRAID1が1個
・4台のHDDによるRAID1のスパンが1個

(3) リビルド機能
メニューで選択可能ですが、***本機能は絶対に使用しないでください***。
リビルド中にエラーを検出すると、アレイそのものを使用できなくなる恐れがあります。
アレイを構成する HDD が故障して、リビルドを実施する必要がある場合は、次のいずれかの方法で実施するようにお願いします。

●OS 起動後の、故障 HDD の活線挿抜によるホットスワップ & オートリビルド

●OS 起動後の、スペアディスクによるスタンバイリビルド

(4) ベリファイ機能
メニューで選択可能ですが、***本機能は絶対に使用しないでください***。
ベリファイを実施する必要がある場合は、必ず Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition（以降 ASMBE と略記します）を使用してください。

1.3. 注意事項

SCSI*Select* ユーティリティには次のような注意事項があります。

◆ HostRAID 設定を「Enabled」にした場合は、**HDD 以外は接続できません**。

◆ HostRAID に接続した HDD は、**単体ディスクとして使用しないでください**。アレイを設定するかスペアディスク設定で使用してください。

◆ HostRAID は本体装置内蔵の HDD のみサポートしています。**外部接続の HDD を HostRAID で使用しないでください。**

◆ アレイを設定した後は、必ずビルド処理を実行しください。ビルドが完了しないと OS からアレイが正しく認識されません。

◆ ビルド処理完了後、作成したアレイに OS のパーティションを作成してください。OS のパーティションが存在しない場合、OS の起動ごとにベリファイが実施されます。

◆ SCSI*Select* ユーティリティでは次の機能をサポートしていません。これらの機能は HostRAID 用ドライバおよび ASMBE をインストールした OS 上で使用可能です。
- **DISK ランプ制御機能**
- **ホットスワップ & オートリビルド機能**
- **スタンバイリビルド機能（スペアディスクは本ユーティリティで設定可能です）**

◆ リビルドおよびベリファイは SCSI*Select* ユーティリティのメニューから選択可能ですが**絶対に使用しない**でください。

◆ SCSI*Select* ユーティリティ終了後、POST 画面の最後に「Boot Selection Menu」が表示される場合があります。

◆ 本書は、SCSI BIOS バージョン 4.10.0S を対象としています。

第 2 章　アレイの作成手順

本章では SCSI*Select* ユーティリティを使ったアレイの作成方法に関する手順を説明します。

2.1.　アレイを新規に作成する場合

初めて SCSI*Select* ユーティリティを使用してアレイを設定する場合の手順を示します。

① SCSI*Select* ユーティリティの起動（3.1 章参照）
② HostRAID の設定変更（3.3 章参照）
③ アレイの作成（4 章参照）
④ スペアディスクの追加（6 章参照）
　　※スペアディスクを設定しない場合は必要ありません。
⑤ SCSI*Select* ユーティリティの終了（3.2 章参照）
　　※HostRAID の設定を変更した場合は、必ずここで再起動処理が入ります。

2.2.　HDD の追加を行なう場合

HDD の追加は、主にアレイを追加作成する場合とスペアディスクを追加する場合が考えられます。既に存在しているアレイを破壊しないよう注意してください。

2.2.1. アレイを追加する場合

① 電源 OFF 時にアレイを作成する HDD を追加
② SCSI*Select* ユーティリティの起動（3.1 章参照）
③ 追加 HDD を使用してのアレイの作成（4 章参照）
④ SCSI*Select* ユーティリティの終了（3.2 章参照）

2.2.2. スペアディスクを追加する場合

① 電源 OFF 時にスペア用の HDD を追加
② SCSI*Selec* ユーティリティの起動（3.1 章参照）
③ スペアディスク設定（6 章参照）
④ SCSI*Select* ユーティリティの終了（3.2 章参照）

2.3.　アレイ構成を変更する場合

現在のアレイをクリアして新たにアレイを作成する場合の手順を示します。

① SCSI*Select* ユーティリティの起動（3.1 章参照）
② アレイの削除（5 章参照）
③ アレイの作成（4 章参照）
④ スペアディスクの追加（6 章参照）
　　※スペアディスクを設定しない場合は必要ありません。
⑤ SCSI*Select* ユーティリティの終了（3.2 章参照）

第 3 章　SCSI*Select* ユーティリティの使い方

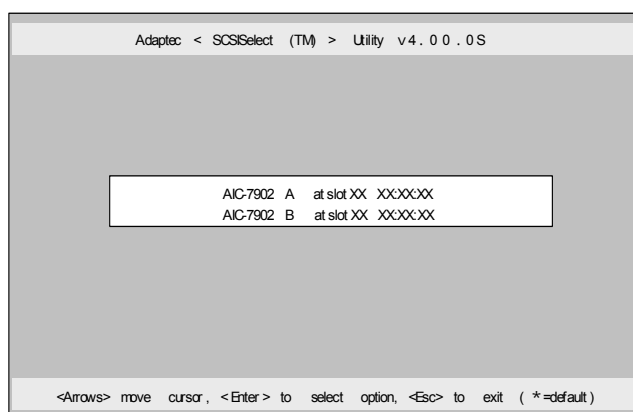
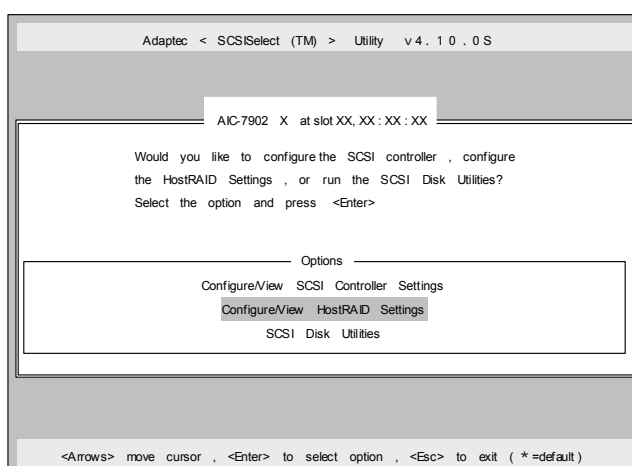
ここでは、SCSI*Select* ユーティリティの基本操作について説明します。

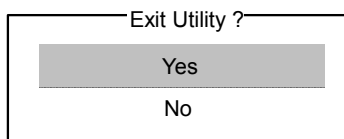
3.1. 起動方法

SCSI*Select*ユーティリティを起動するには、以下の手順に従います。

(1)　システムの起動、または再起動時に以下のメッセージが表示されたら、[Ctrl]キーを押しながら[A]キーを押します。

Press <Ctrl><A> for SCSISelect (TM) Utility!

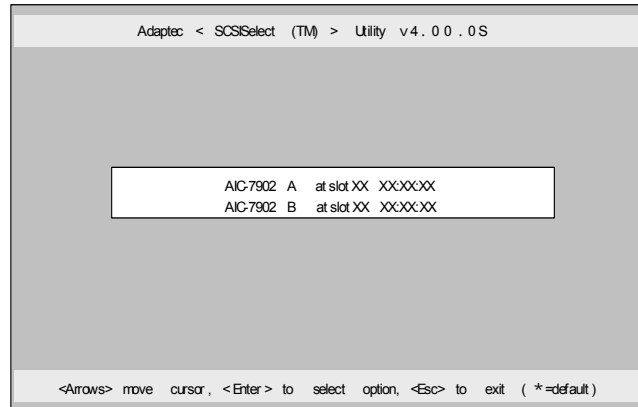
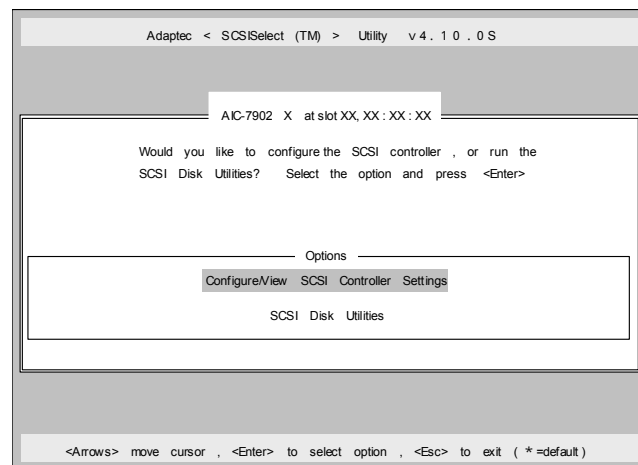
(2)　設定を実施するチャネルを選択し、[Enter]キーを押します。

(3)　「Options」ウィンドウが起動されます。
「Options」ウィンドウで、「Configure/View HostRAID Settings」を選択し、[Enter]キーを押します。

重要

- **「Configure/View HostRAID Settings」が表示されていない場合は、HostRAID 設定を「Enabled」に設定してください。HostRAID の設定方法については、3.3 章を参照してください。**
- **「Configure/View HostRAID Settings」のメインメニューの情報内容については、3.4 章を参照してください。**
- **アレイの作成方法については、4 章を参照してください。**

3.2. 終了方法

SCSI*Select*ユーティリティを終了するには、次のメッセージが表示されるまで [Esc]キーを押します。
「Yes」を選択し、[Enter]キーを押してユーティリティを終了します。

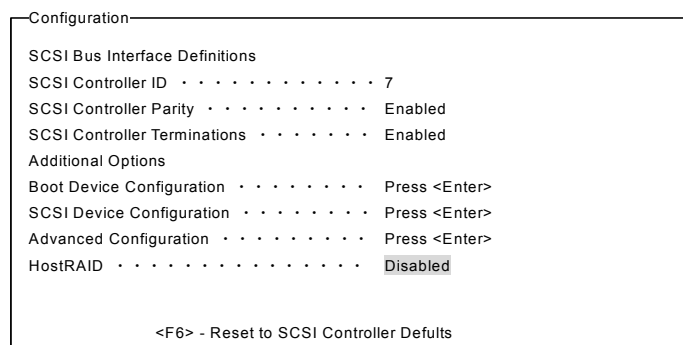
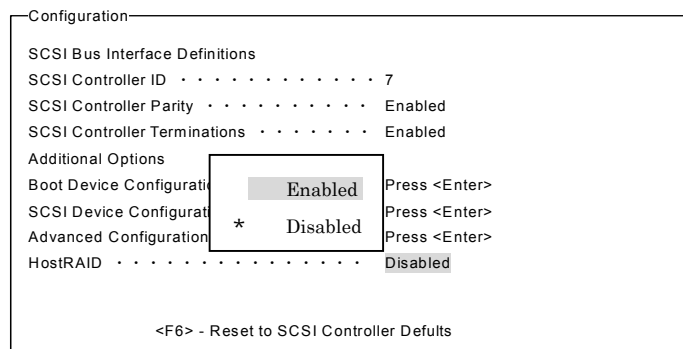
3.3. HostRAID 設定方法

アレイを作成するためには、HostRAIDを「Enabeled」に設定してください。
以下の手順で設定を変更します。

(1) SCSI *Select* ユーティリティを起動し、HostRAIDを設定するチャネルを選択し、「Options」ウィンドウを開きます。

(2) 「Configure/View SCSI Controller Settings」を選択し、[Enter]キーを押します。

(3) 「Configuration」ウィンドウにてHostRAIDの「Disabled」に移動し、[Enter]キーを押します。

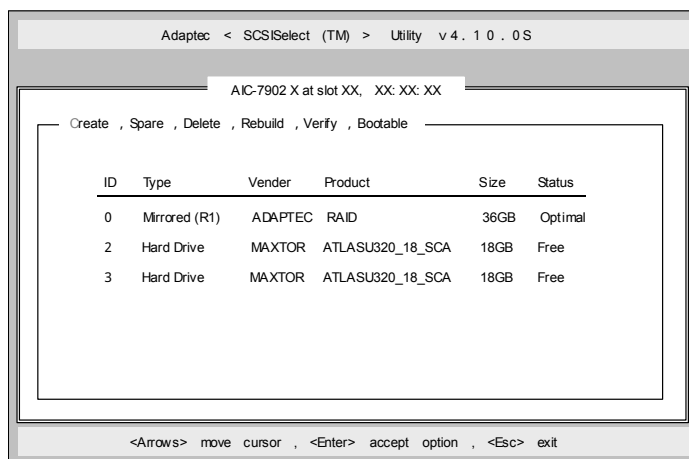
Configuration

SCSI Bus Interface Definitions
SCSI Controller ID ・・・・・・・・・・・・・ 7
SCSI Controller Parity ・・・・・・・・・・・ Enabled
SCSI Controller Terminations ・・・・・・・ Enabled
Additional Options
Boot Device Configuration ・・・・・・・・ Press <Enter>
SCSI Device Configuration ・・・・・・・・ Press <Enter>
Advanced Configuration ・・・・・・・・・ Press <Enter>
HostRAID ・・・・・・・・・・・・・・・ Disabled

<F6> - Reset to SCSI Controller Defults

(4)　「Enabled」に変更後、[Esc]キーを押します。
「Save Changes Made?」とメッセージが表示されたら、「Yes」を選択し[Enter]キーを押します。

重要

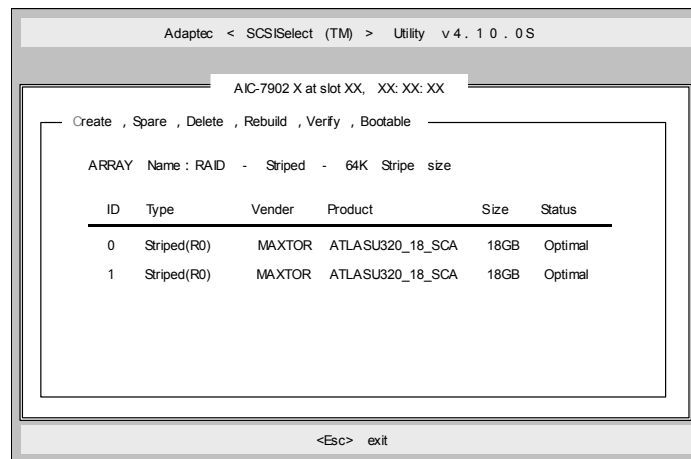
- **HostRAID は本体装置内蔵の HDD のみサポートしています。外部接続用チャネルを HostRAID 設定にしないでください。**
- **引き続きアレイの作成を行う場合は、4 章を参照してください。**
- **HostRAID 設定を変更した場合は、設定を有効にするために、SCSI*Select* ユーティリティを終了すると、再起動処理が実行されます。**

3.4. メインメニューの表示について

「Configure/View HostRAID Settings」を選択すると、HDDのスキャン完了後に次のようなメインメニューが表示されます。

メインメニューの表示

- ■ ID ー HDDのSCSI ID番号、またはアレイのID番号を表示します
- ■ Type ー アレイのRAIDレベル、またはアレイを構成していないHDDを表示します
  - □ Hard Drive ー アレイを構成していないHDD
  - □ Striped(R0) ー RAID0で作成されたアレイ
  - □ Mirrored(R1) ー RAID1で作成されたアレイ
  - □ Stripe/Mirror(R10)ー RAID1のスパンで作成されたアレイ
  - □ Spare ー スペア設定されたHDD

- ■ Vendor ー HDDのベンダ、またはHostRAIDのベンダ（Adaptec）を表示します
- ■ Product ー HDDのモデル名、またはアレイの名前を表示します
- ■ Size ー HDD、またはアレイの容量を表示します
- ■ Status ー HDD、またはアレイのステータスを表示します
  - □ Free ー アレイを構成していないHDD
  - □ Optimal ー アレイは正常
  - □ Degraded ー RAID1またはRAID1のスパンのHDDの1台が故障している
    RAID1のスパンを構成する別々のミラーリングで合計2台のHDDが故障している
  - □ Dead ー RAID0のHDDが1台以上故障している
    RAID1のHDDが2台故障している
    RAID1のスパンを構成するRAID1内でHDDが2台故障している
  - □ Building ー アレイはビルドプロセス中
  - □ Verify ー アレイはベリファイプロセス中
  - □ Rebuild ー アレイはリビルドプロセス中

メインメニューでアレイを選択すると、アレイを構成するHDDの詳細が表示されます。

アレイの詳細表示

■ ID　―　アレイを構成するHDDのSCSI ID番号

■ Type　―　アレイのRAIDレベルを表示します

□ Striped(R0)　―　RAID0で作成されたアレイ

□ Mirrored(R1)　―　RAID1で作成されたアレイ

□ Stripe/Mirror(R10)　―　RAID1のスパンで作成されたアレイ

■ Vendor　―　HDDのベンダを表示します

■ Product　―　HDDのモデル名を表示します

■ Size　―　HDDの容量を表示します

■ Status　―　HDDのステータスを表示します

□ Optimal　―　HDDは正常

□ Degraded　―　HDDは故障している

□ Failed　―　HDDは故障している

□ Building　―　HDDは現在ビルド対象

□ Verify　―　HDDは現在ベリファイ対象

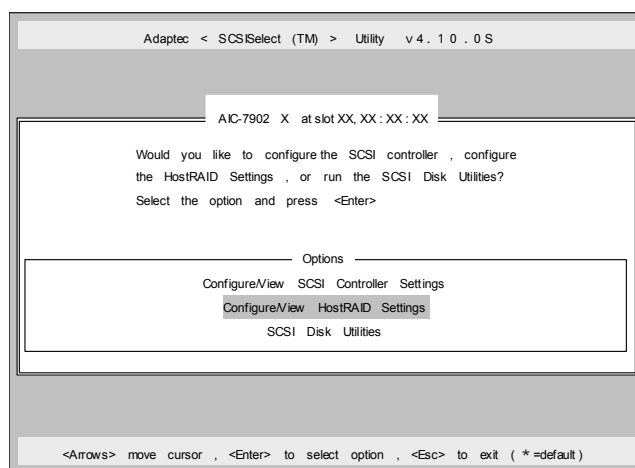
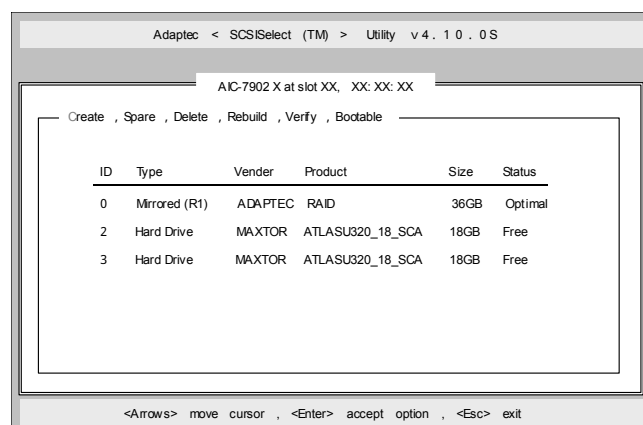
□ Replaced　―　HDDは現在リビルド対象

□ Missing　―　アレイを構成するHDDが、ディスクアレイコントローラから認識されていない

第４章　アレイの作成

4.1.　事前確認

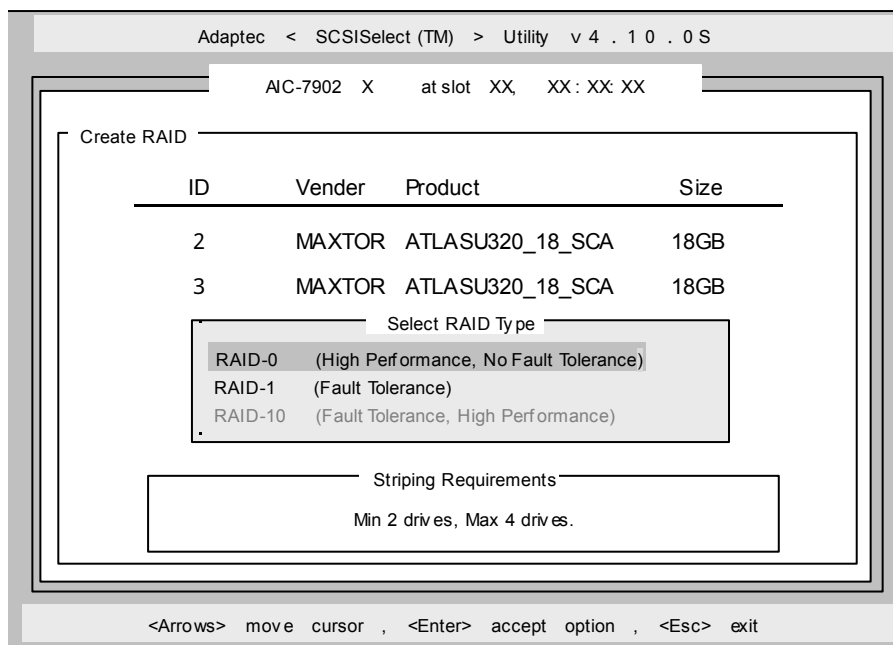
アレイを作成する前に、アレイを構成するためのHDDが接続されていることを確認してください。

(1)　SCSI*Select*ユーティリティを起動し、アレイを作成するチャネルの「Option」ウィンドウから、「Configuration/Veiw HostRAID Settings」を選択し、[Enter]キーを押します。

(2)　メインメニューで、アレイを作成するために、[C]キーを押します。

重要

- **アレイを作成するには少なくとも2台のHDDが必要です。**
- **アレイを作成する際に、容量の異なるHDDを使用すると、容量の小さい方にあわせてアレイの容量は設定されます。**
- **本体装置でサポートしている純正品以外のHDDを使用しないでください。**
- **HDDがすでにアレイ構成の一部になっている場合は、そのHDDは選択できません。**

(3) 「Select RAID Type」ウィンドウで、構築するRAIDタイプを選択し、[Enter]キーを押します。

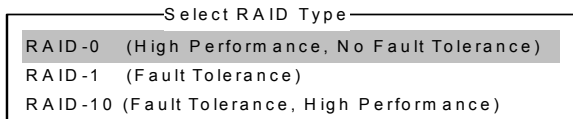
選択内容を強調表示すると別ウィンドウが表示されて、作成に必要なHDDの最低および最大個数、またスペアの割り当てに関する説明が表示されます。

※　各RAIDの設定については、4.2~4.4章を参照してください。

4.2. RAID0 アレイの作成

RAID0アレイを作成するには、以下の手順に従います。

(1) **「Slect RAID Type」**ウィンドウで**「RAID-0」**を選択し、[Enter]キーを押します。

Select RAID Type

RAID-0 (High Performance, No Fault Tolerance)
RAID-1 (Fault Tolerance)
RAID-10 (Fault Tolerance, High Performance)

(2) カーソルキーで切り替えながら使用するHDDをスペースバーで選択し、**[Enter]**キーを押します。選択されたHDDの「Size」横には**「X」**が表示されます。

RAID-0 : Select RAID members

ID	Vendor	Product	Size	
0	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	X
1	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	
2	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	
3	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	

(3) **「Select Strip Size」**ウィンドウが表示されたら、**「16KB」**、**「32KB」**、**「64KB」**のいずれかを選択し、**[Enter]**キーを押します。

(4) **「Assign RAID Name」**ウィンドウにて任意の**RAID Name**を入力し、[Enter]キーを押します。
RAID Nameは、他のアレイと同じ名前にならないように注意してください。
RAID Nameは、半角15文字以内です。

重要

- **選択したHDDに、有効なパーティション情報またはブートブロックが検出された場合、警告メッセージが表示されます。アレイの作成を続ける場合は「Yes」を選択し、作成を中止する場合は「No」を選択してください**
- **間違ったHDDを使用した場合、データは復旧できませんので十分にご注意ください。**

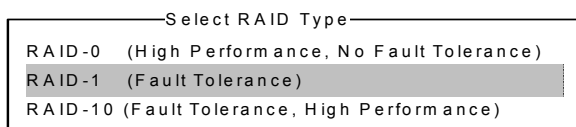
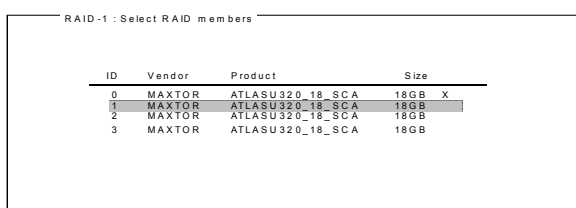
(5) **「Create Array?」**というメッセージが表示されたら、「**Yes**」を選択し、**[Enter]**キーを押します。
「No」を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。

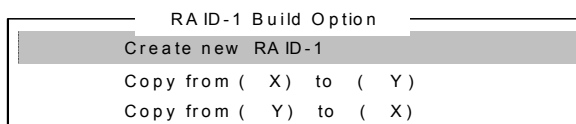
(6) **「Are you sure?」**というメッセージが表示されたら、「**Yes**」を選択し、**[Enter]**キー押します。
「No」を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。

(7) **「Build Completed」**と表示されたら **[Esc]**キーでメインメニューに戻ります。
メインメニューに戻ったときに、作成したアレイの「Status」が「**Optimal**」になっていることを確認してください。

4.3. RAID1アレイの作成

RAID1アレイを作成するには、以下の手順に従います。

(1)　「Slect RAID Type」ウィンドウで、「RAID-1」を選択します。

(2)　カーソルキーで切り替えながら使用するHDDをスペースバーで選択し、[Enter]キーを押します。選択されたHDDの「Size」横には「X」が表示されます。

(3)　「RAID-1 Build Option」ウィンドウが表示されます。いずれかのオプションを選択し、[Enter]キーを押します。 選択可能なオプションは次のとおりです。

RAID-1 Build Option
Create new RAID-1
Copy from (X) to (Y)
Copy from (Y) to (X)

- **Create new RAID-1** ：デフォルトのオプションです。
- **Copy from (X) to (Y)**：選択しないでください。
- **Copy from (Y) to (X)**：選択しないでください。

重要

- **「RAID-1 Build Option」では、「Create new RAID-1」のみ選択可能です。「Create new RAID-1」以外のオプションを選択しないでください。**

(4)　「Assign RAID Name」ウィンドウにて任意のRAID Nameを入力し、[Enter]キーを押します。
RAID Nameは、他のアレイと同じ名前にならないように注意してください。
RAID Nameは、半角15文字以内です。

重要

- **選択したHDDに有効なパーティション情報またはブートブロックが検出された場合、警告メッセージが表示されます。アレイの作成を続ける場合は「Yes」を選択し、作成を中止する場合は「No」を選択してください。**
- **間違ったHDDを使用した場合、データは復旧できませんので十分にご注意ください。**

(5)　「Create Array?」というメッセージが表示されたら、「Yes」を選択し、[Enter]キーを押します。
「No」を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。

(6)　「Are you sure?」というメッセージが表示されたら、「Yes」を選択し、[Enter]キーを押します。
「No」を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。

(7)　アレイが作成されると続いて、ビルドが実行されます。「Driver Background Task Priority」 ウインドウが表示されますので、「High」、「Medium」、「Low」いずれかのオプションを選択し、[Enter]キーを押します。 ビルドが何パーセントまで完了したかを示すプログレスレバーが表示されます。

Driver Background Task Priority

High　- Builds fastest, high CPU usage
Medium - Moderate speed, moderate CPU usage
Low　- Builds longest, low CPU usage

重要

- **ビルドプロセスは必ず最後まで終了させてください。ビルドの途中で、[Esc]キーを押して処理を中断しないでください。**
  ビルド処理が完了しアレイの「Status」が「Optimal」にならないと、OSからアレイが正しく認識されません。
- **「Driver Background Task Priority」は、本ユーティリティでは機能しません。どのPriorityを選択しても処理時間は同じになります。**

(8)　「Build Completed」と表示されたら、[Esc]キーでメインメニューに戻ります。
メインメニューに戻ったときに、作成したアレイの「Status」が「Optimal」になっていることを確認してください。

この後、スペアディスクを設定する場合は、6章を参照してください。

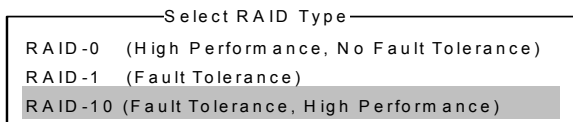
チェック

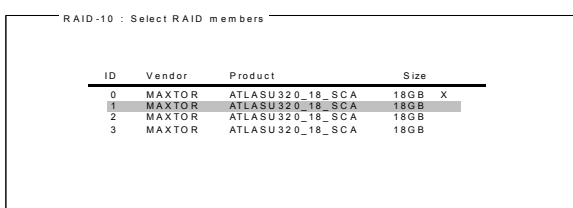
ビルド処理完了後、作成したアレイにOSのパーティションを作成してください。OSのパーティションが存在しない場合、OSを起動するごとにベリファイが実施されます。

4.4. RAID1のスパンの作成

RAID1のスパンアレイを作成するには、以下の手順に従います。

(1) 「Slect RAID Type」ウィンドウで、「RAID-10」を選択します。

```
Select RAID Type
RAID-0  (High Performance, No Fault Tolerance)
RAID-1  (Fault Tolerance)
RAID-10 (Fault Tolerance, High Performance)
```

(2) カーソルキーで切り替えながら使用するHDDをスペースバーで選択し、[Enter] キーを押します。選択されたHDDの「Status」横には「X」が表示されます。

ID	Vendor	Product	Size	
0	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	X
1	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	
2	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	
3	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	

(3) 「Select strip size」ウィンドウが表示されたら、「16KB」、「32KB」、「64KB」のうちいずれかを選択し、[Enter]キーを押します。

(4) 「Assign RAID Name」ウィンドウにて任意のRAID Nameを入力し、[Enter]キーを押します。
RAID Nameは、他のアレイと同じ名前にならないように注意してください。
RAID Nameは、半角15文字以内です。

重要

- **選択したHDDに有効なパーティション情報またはブートブロックが検出された場合、警告メッセージが表示されます。アレイの作成を続ける場合は「Yes」を選択し、作成を中止する場合は「No」を選択してください。**
- **間違ったHDDを使用した場合、データは復旧できませんので十分にご注意ください。**

(5) 「Create Array?」というメッセージが表示されたら、「Yes」を選択し、[Enter]キーを押します。
「No」を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。

(6) 「Are you sure?」というメッセージが表示されたら、「Yes」を選択し、[Enter]キーを押します。
「No」を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。

(7) アレイが作成されると続いて、ビルドが実行されます。「Driver Background Task Priority」 ウィンドウが表示されますので、「High」、「Medium」、「Low」いずれかのオプションを選択し、[Enter]キーを押します。 ビルドが何パーセント完了したかを示すプログレスレバーが表示されます。

Driver Background Task Priority
High - Builds fastest, high CPU usage
Medium - Moderate speed, moderate CPU usage
Low - Builds longest, low CPU usage

重要

- **ビルドプロセスは必ず最後まで終了させてください。ビルドの途中で 、[Esc]キーを押して処理を中断しないでください。**

  ビルド処理が完了しアレイの「Status」が「Optimal」にならないと、OSからアレイが正しく認識されません。
- **「Driver Background Task Priority」は、本ユーティリティでは機能しません。どのPriorityを選択しても処理時間は同じになります。**

(8) 「Build Completed」と表示されたら、[Esc]キーを押してメインメニューに戻ります。メインメニューに戻ったときに、作成したアレイの「Status」が「Optimal」になっていることを確認してください。

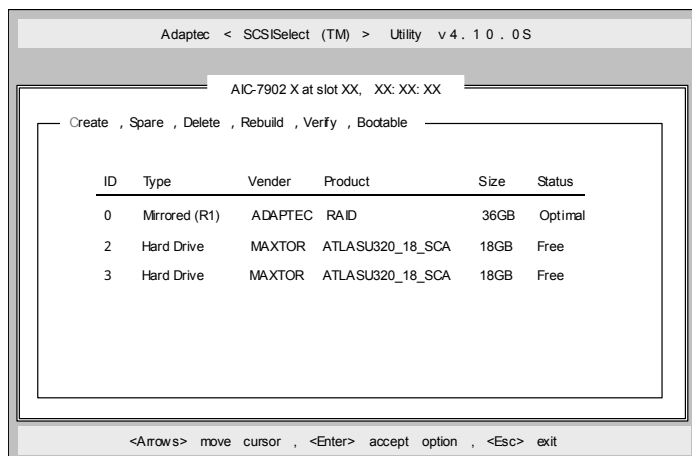
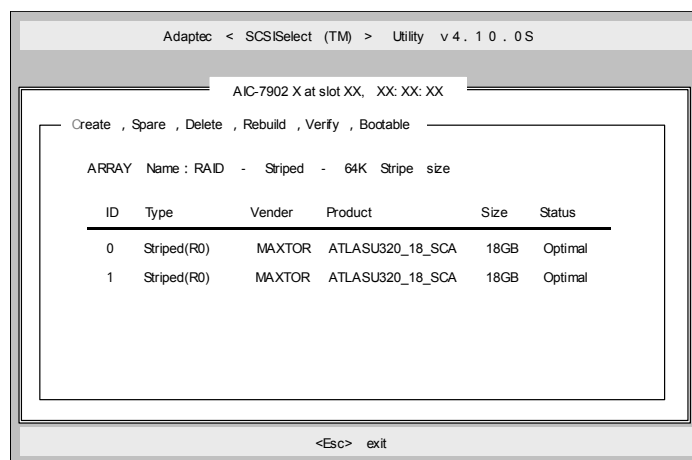
この後、スペアディスクを設定する場合は、6章を参照してください。

チェック

ビルド処理完了後、作成したアレイにOSのパーティションを作成してください。OSのパーティションが存在しない場合、OSを起動するごとにベリファイが実施されます。

第５章　アレイの削除

アレイを削除するには、次の手順に従ってください。

(1)　メインメニューで、カーソルを移動して削除するアレイを選択し、[Enter]キーを押します。

(2)　次の画面が表示されたら、アレイを削除するために <D> キーを押します。

(3)　「Delete Array ?」 というメッセージが表示されたら、「Yes」を選択し[Enter]キーを押します。
「No」を選択するとアレイの削除は実施されずに、メインメニューに戻ります

(4)　「Deleting information」ウインドウが表示されたら、パーティション／ブートブロックの情報を消去したいHDDまたは「None」を選択して、[Enter]キーを押します。RAID0またはRAID1のスパンの場合、「Deleting information」ウインドウは表示されません。

重要

- **「Deleting information」で選択されたHDDは、パーティションまたはブートブロックの情報が消去されます。**

(5)　「Are you sure ?」というメッセージが表示されたら、「Yes」を選択し[Enter]キーを押します。
「No」を選択するとアレイの削除は実施されずに、メインメニューに戻ります。

重要

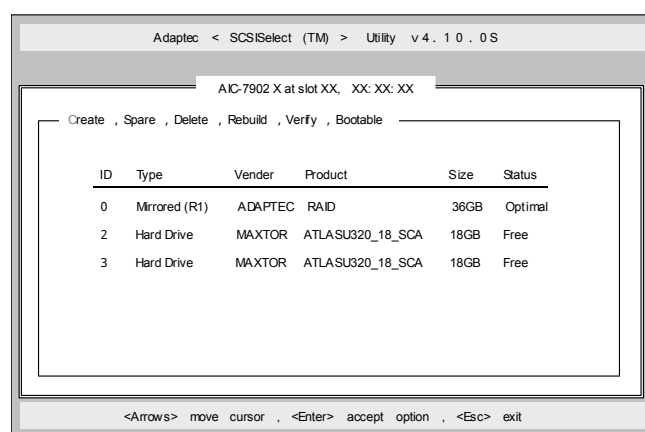
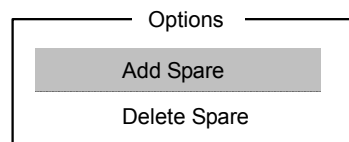
- **アレイの削除を実行するとデータが消えますので、予めデータのバックアップを行っておくことをお勧めします。**
- **HostRAID に接続した HDD は、単体ディスクとして使用しないでください。アレイを設定するかスペアディスク設定で使用してください。**

第６章　スペアディスクの作成

スペアディスクは、1チャネルあたりにつき1台まで作成することができます。
スペアディスクは、RAID1またはRAID1のスパンについてのみ有効です。

スペアディスクのサイズはアレイを構成するHDD以上のサイズが必要です。 アレイを構成するHDDのうち一番容量の小さいHDDが36GBで、スペアディスクが18GBの場合、スペアとして機能しません。

スペアディスクを作成するには、以下の手順に従います。

(1)　メインメニューで、スペアディスクを作成するために [S]キーを押します。

(2)　次のオプションが表示されたら、「Add Spare」を選択し[Enter]キーを押します。

(3)　スペアディスクに設定可能なHDDの一覧が表示されたら、スペアディスクに設定するHDDを[Enter]キーで選択します。

(4)　「Are you sure ?」というメッセージが表示されたら、「Yes」を選択し、[Enter]キーを押します。
「No」を選択するとスペアディスクの設定は実施されず、メインメニューに戻ります。

(5)　メインメニューで選択したHDDの「Type」が「Spare」に変更されていること、「Status」が「Optimal」になっていること確認してください。

スペアディスクを解除する場合は、手順(2)のオプションのところで「Delete Spare」を選択する以外は、手順(1)～(5)と同じです。

第７章　ブートプライオリティ指定

アレイにブートプライオリティを指定するためには、以下の手順に従います。

チェック

この機能を使用することにより、アレイID のプライオリティに関係なく、指定したアレイにブートプライオリティが与えられます。

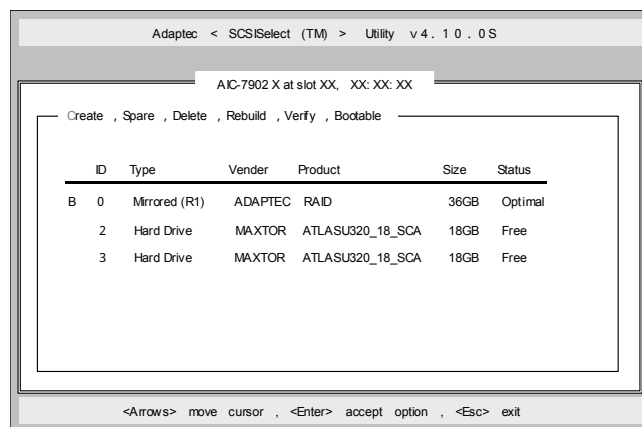
フロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブを含むブートプライオリティ設定については、システム BIOSセットアップユーティリティを使用してください。

システム BIOSセットアップユーティリティに関しては本体装置のユーザーズガイドを参照してください。

(1)　メインメニューで対象のブートプライオリティを設定したいアレイを選択し、 [Enter]キーを押します。

(2)　アレイの詳細画面が表示されたら、[B]キーを押します。

(3)　「Options」ウインドウで、「Mark bootable」を選択し、[Enter]キーを押します。

(4)　設定されたことを示す「B」が、「ID」の横に表示されます。

ブートプライオリティを解除する場合は、手順(3)のオプションのところで「Unmark bootable」を選択する以外は、手順(1)～(4)と同じです。

重要

- **スペアディスクを使ったスタンバイリビルドが行われた場合、再度、スタンバイリビルドを行ってHDDの実装位置とそのHDDを使ったアレイの構成がリビルド前と同様になるようにしてください。**

  この操作を行わないと、ブートプライオリティが変更になり、HostRAIDからのOS起動ができなくなる場合があります。

第８章　コンフィグレーション情報のセーブ/リストア

本章では、アレイのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクにセーブする手順について説明します。
なお、本操作を行うためには、フロッピーディスクと本体装置添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMが必要です。

8.1.　事前準備

ローカルコンソール（またはリモートコンソール）環境でEXPRESSBUILDER CD-ROMから本体装置を起動して、EXPRESSBUILDERトップメニューを表示させてください。起動方法については、本体装置添付のユーザーズガイドを参照してください。

8.2.　コンフィグレーション情報のセーブ

アレイのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクにセーブするには、以下の手順に従います。

(1)　EXPRESSBUILDERトップメニューから「ツール」メニューを選択し、[Enter]キーを押します。

(2)　「RAID情報のセーブ/リストア」メニューを選択し、[Enter]キーを押します。
続けて、「RAID情報のセーブ」メニューを選択し、[Enter]キーを押します。

(3)　画面の指示に従って、コンフィグレーション情報をフロッピーディスクにセーブしてください。
コンフィグレーション情報をセーブしたフロッピーディスクは、大切に保管してください。

重要

- **アレイの新規作成や変更を行った時は、必ず本機能を使用してコンフィグレーション情報をセーブしてください。**
- **本機能は、OS領域を含むディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報のみセーブ可能です。OS領域を含まないディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報のセーブには、ディスクアレイコントローラ添付のユーザーズガイドを参照してください。**

8.3.　コンフィグレーション情報のリストア

重要

- **本機能は保守用です。使用しないでください。**

付録．トラブルシューティング

■ アレイを作成できない

「Configure/View HostRAID Setteings」を正常に終了した後に、アレイの「Status」が「Optimal」表示されていない場合は、再度設定してください。
再設定した場合においても「Optimal」とならない場合は、ディスクアレイコントローラもしくはHDD の故障が考えられます。
保守サービス会社に連絡してください。

■ アレイのビルドを中断した場合、もしくはビルド中に異常終了した場合

次の手順に従って、アレイのビルドを再開してください。

(1) メインメニューで、「Status」が「Building」となっているアレイを選択し、[Enter]キーを押します。
(2) アレイの詳細画面になったら、[R]キーを押します。
(3) 「Driver Background Task Priority」で、いずれかのプライオリティを選択し、[Enter]キーを押します。
(4) 中断されたところから、ビルドが再開します。

■ スタンバイリビルド後の本体装置立上げで、OS を起動できない場合

スペアディスクを使ったスタンバイリビルドが行われた場合、ブートプライオリティが変更になり、HostRAID からの OS 起動ができなくなる場合があります。7 章を参照して OS が格納されているアレイにブートプライオリティを指定してください。

HostRAID
SCSI*Select* ユーティリティ
操作説明書
856-121814-012

2003 年　１１月　初版

日　本　電　気　株　式　会　社
東京都港区芝五丁目７番１号
TEL (03) 3454-1111　（大代表）